

《薬局サーベイランスコメント》

『先週（2018年第2週）1週間のインフルエンザの推定患者数は100万人を超え、既に本格的な流行期間に入っているが、今週（第3週）は更に患者数が増加すると予想される』

2018年1月16日

済生会中津病院感染管理室

安井 良則

今シーズン（2017/2018年シーズン）の2018年第2週（1月8日～14日）の1週間当たりのインフルエンザの推定患者数は、薬局サーベイランスによると今シーズン初めて100万人を上回って1,003,935となり、前週（第1週）の値（560,450）よりも大幅に増加しました（図1）。週明けの月曜日（2018年1月15日）の推定患者数は341,429と今シーズンの1日での推定患者数の最高値を更新しており、第3週（1月15日～21日）の患者数は更に増加する可能性が高いと思われます。

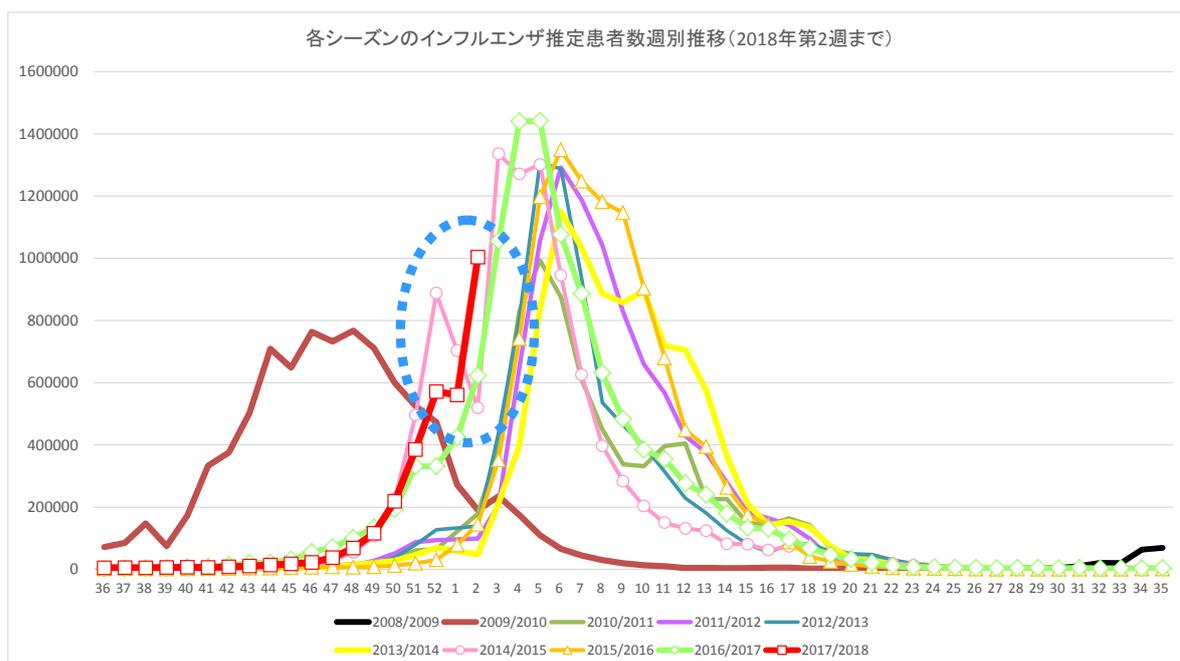


図1. 過去7シーズンと今シーズン（2017/2018年シーズン）の第36～第2週までのインフルエンザ推定患者数の週別推移（2018年第2週の推定患者数= 1,003,935）

各都道府県別の第2週の人口1万人当たりの1週間の推定受診者数をみると福井県、大分県、静岡県、宮崎県、三重県、熊本県、徳島県、鹿児島県、奈良県、長崎県、岡山県、広島県の順となっていて、47都道府県全てにおいて増加が見られました。

2017年第36週から2018年第2週までの累積の推定患者数は3,067,205であり、2017年10月1日現在の人口統計を元にした累積罹患率は2.42%でした。年齢群別での累積罹患率は5～9歳(9.76%)、10～14歳(6.49%)、0～4歳(5.73%)、15～19歳(3.23%)、30～39歳、40～49歳は共に(2.35%)、20～29歳(2.13%)の順となっていて、14歳以下が流行の中心であることに変わりはありません(図2)。

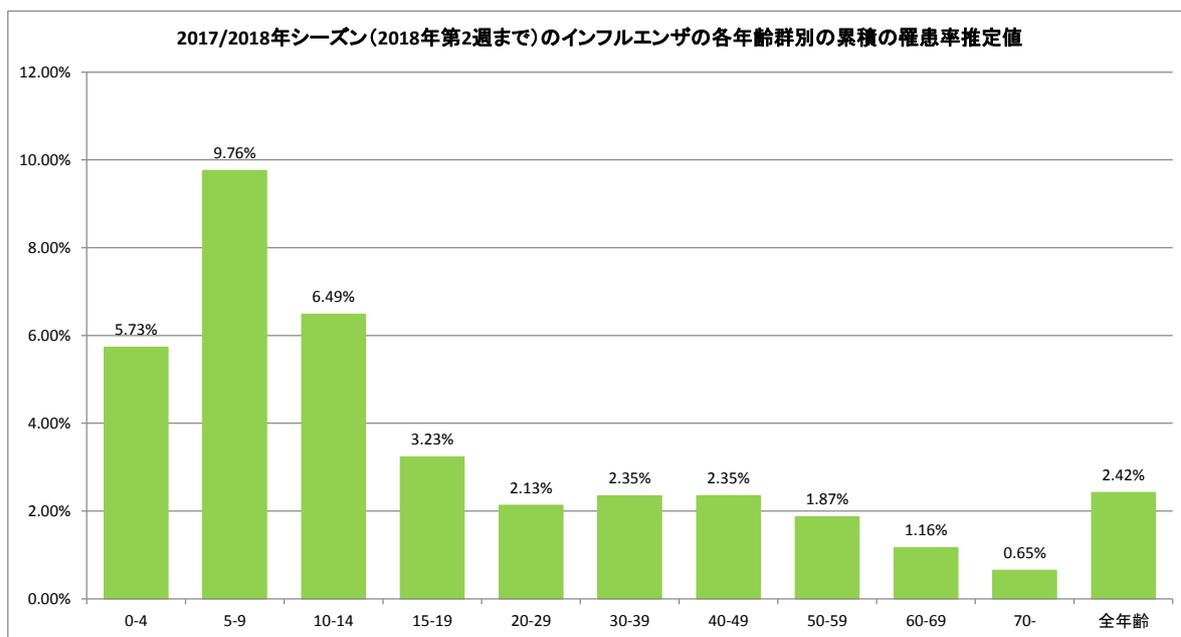


図2. 各年齢群のインフルエンザ累積罹患率の推定値(2017年第36～2018年第2週、累積推定患者数=3,067,205)

国立感染症研究所感染症疫学センターの病原微生物情報(<https://www.niid.go.jp/niid/ja/iasr/510-surveillance/iasr/graphs/1532-iasrgv.html>)によると、今シーズンこれまでのインフルエンザ患者由来検体から検出されたインフルエンザウイルスは、およそ半数がA/H1pdmであり、次いでB型、A/H3(A香港)亜型の順となっています。B型では山形系統が大半を占めています。

2018年第2週(先週)1週間のインフルエンザの推定患者数は100万人を超え、既に本格的な流行期間に入りましたが、第3週(今週)は更に患者数が増加する可能性が高いです。第3週・第4週(今週・来週)とインフルエンザの流行には厳重な警戒が必要です。